



商業高校生の学習支援アプリ『clemy(クレミー)』

垣さんも刺激を受けながら夢に邁進していきました。同時に、当所などが支援に関わるNeo Work「Gifu(ネオワーク岐阜)の「ぎふスタートアップ支援事業」に相談。助言を受けながら、ビジネスプランを磨いていきました。そして令和六年一月、念願のアプリが完成しました。

生徒に寄り添い力になりたい

開発した学習アプリの名は、「clemy」。クレバーミー『私を賢くする』という意味が込められています。

「商業高校生が学習に使えるよう、全商検定の座学で学習する範囲を

網羅したソフトです。今まで、全商検定を対象としたオンライン教材はありませんでした。さらに、学生の意見からアプリの機能を追加し、ITパスポート(注②)にも取り組めるように工夫しました」

clemyは問題を解くことでポイントが付与される仕組みになっています。貯まったポイントは、自社開発したシステムで模擬的に株の運用体験ができます。

「勉強への好奇心を持つてほしい、ただの学習教材ではなく、学習者が主体的に学ぶ教材を開発したい」との思いを込めました」

全国の高校において令和四年度に新入学した生徒からプログラミング教育が必修化され、全員がプログラミングの内容を含む「情報I」を学ぶことになりました。さらに、令和七年度の大学入試からは、「情報I」の学習内容が「大学入学共通テスト」や一部の大学入試でも出題される予定となっています。

「近年、普通科の生徒でも情報処理や簿記を取得するなど、商業科目への注目、枝葉は広がってきています。最終的には、全ての高校生に『clemy』を届けられたらいいなと思っています」

また、新たな戦略として、アプ



アプリで生徒のやる気を一押ししたい

わが国では、経済成長やイノベーションの促進、雇用創出など様々な効果が期待されるスタートアップ企業の支援が進められています。今回は、「岐阜大学起業部発ベンチャー」の株式会社 LiemPia CEO 西垣快真さんに、起業に至った経緯や想い、今後のビジョンなどを伺いました。

株式会社 LiemPia CEO 西垣 快真さん

自分の想いを形にしたい

株式会社 LiemPia CEO 西垣快真さん、二十五歳。構想から二年を経て、令和五年七月に商業高校生の学習支援アプリ「clemy(クレミー)」の運営と、学生を対象としたコミュニティを運営する会社を起業しました。社名は、つながりを意味するフランス語の『リエン』と理想郷を意味する英語の『ユートピア』を併せて命名されました。

「商業高校生は、全商検定(注①)と呼ばれる試験に挑みます。八年前、私もそのうちの一人でした。商業科目が苦手な私は、試験勉強が捗らず成績が伸び悩んだ時期もありました。実際、私と同様に商業科目が苦手な商業高校生も幾人かいました。そのような私に『できない人の気持ちに分かるならば、商業高校の教員を目指したらどうか』という恩師のアドバイスがきっかけとなり、商業高校の教員を目指すようになりました」

高校卒業後は、商業科の教員免許が取得できる大学へ進学。しかし、教員採用試験の結果は、不合格でした。それでも西垣さんの想いは強く、今よりも広い視野で生

徒を指導できる教員になるべく、岐阜大学教育学研究科の門をたたきました。

大学院の研究では、フィールドワークに力を注ぎました。実際に商業高校に通う生徒たちの現場の声を聴いた西垣さんは、学習に役立つ「アプリ」が欲しいという声が多いことを知りました。

「当時の商業高校では、紙媒体での学習が主流で、オンライン教材の定着率は、まだ普及しているとは言いがたい状況でした。生徒と教員両者への調査を進め、商業高校の価値を高めるアプリとはどのようなものなのか、思考を巡らせました。そこで着目したのが、検定試験でした」

西垣さんは、自分も苦労した試験勉強に、役立つ学習支援アプリがあれば生徒が学習に取り組む一歩目の背中を押すことが出来るのではないかと思いました。そのような中、修士二年生の六月、西垣さんは大怪我により半年もの間動けなくなっていました。病床で「せつかくここまで終わりにたくない」のにこのままで終わりにたくない」との気持ちが日に日に大きくなっていき、完治後にやりたいことをノートに書き出すことにしました。「多くは、これまでお世話になっ

りの法人契約を募り、アプリ内で企業の情報発信できるようにすることを目指しています。

「アプリを通して、高校生が企業の情報を得ることで、将来の職業を考えるきっかけになればと思っています。現在、clemyはサブスクリプションとなっており、利用者の方から年間使用料を頂いています。しかし、企業広告を含め、支援してくださる企業が増えていけば、いずれはすべての高校生が無料で使えるようにできると考えています」

挑戦し続けたい

令和六年三月九日、当所と岐阜市の主催でGIFUIDEAPIITCHCONTESTが開催されました。これは、新規創業等を目指している方や創業後五年未満の事業者、新規ビジネスプランやビジネスアイデアを持つ方を対象としたもので、コンテストをきっかけに事業を広く展開し、地域の活力となるスタートアップ(注③)の育成を目的としています。当日は、観覧客の前で一次選考を突破した登壇者八名が自分の事業のプラン並びに熱い思いを発表しました。その中で、西垣さんのビジネスプラン「clemy」私を賢く

た方々に感謝や恩返ししたいという想いから生まれたことでした。そして、それらの実現には莫大な資金が必要であることに気づきました」

それからは、治療をしながらやりたいことを叶えるための資金を稼ぐ方法をひたすら考えました。たどり着いた結論が、「起業」でした。西垣さんのやりたいビジネスプランの主軸は「教材開発」です。「今こそ、生徒たちから聞いたアプリの話を具現化するとき。それが生徒のやる気をひと押しする学習アプリを作ることだと考えました。検定試験には、高校のカリキュラムに含まれていないものもあり、せつかく開発するならば、いろいろな人の需要に応えられる教材でありたいと強く思いました」

この二つの想いを形にするため、西垣さんは、すぐさま行動に移しました。その第一歩として大学院を休学、大学公認の「岐阜大学起業部」に入部しました。ここでは、実際にアプリとして西垣さんの夢を形にしてくれる開発担当の仲間と出会うことができました。繋がりを大切にしたい西垣さんが正に、社名に込めた想いが実りました。起業部では、部員がそれぞれの夢に向かって切磋琢磨しており、西

するアプリ」は、見事優秀賞を受賞しました。

「いつかこのアプリが商業高校ごとに導入され、教師が練習問題を作る際や、生徒に情報を届けたいときなど、様々な場面で活用できるよう開発を進めていきたいです」

西垣さんの挑戦はまだまだ始まったばかりです。



GIFU IDEA PITCH CONTESTにて優秀賞を受賞した西垣さん

(注①) 全国商業高等学校校長会主催の検定試験簿記や情報処理など、九つの検定試験がある。

(注②) これからの社会人に必須となるITに関する基礎的知識を証明する、経済産業省認定の国家試験

(注③) 革新的なビジネスアイデアを用いて、起業から短期間で急成長を目指す企業